

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	62	大学等名	高知大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、教育の質を担保するために、「10+1の能力」を定め、その評価手法の開発整備によって大学改革を進めてきたことに加え、教職員の教育改善に関わる意識改革の推進により教育環境の整備が加速したことは十分評価できる。また、多様な学習歴等について多面的・総合的に評価する入学者選抜の方法を全学部において導入し、主体性等評価関連試験においては本事業で策定したルーブリックが活用されたこと、さらに、学生が地域に出向き、地域の方々と協働することで、自己の知識・スキルを現実の課題と関連付ける経験を積んでおり、平成28年度以降に新聞報道された地域関連行事は約700件に上ることから、大学改革の取組が高い水準で行われていると評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、学生が身に付けるべき資質・能力の明確化、ディプロマ・ポリシーに基づいた教育活動を行う体制の全学的な整備、並びに体系的・組織的な教育の一体性・整合性が図られていること、また、卒業時の学修成果の客観的提示方法として、「ディプロマ・サプリメント」の発行も開始され、学生の学修成果等を総括し可視化するツールが整備されていることは評価できる。さらに、フォローアップ報告書で指摘された課題に対しても必要な取組がなされ、多くの指標において目標値を達成もしくは上回る成果を上げたことも評価に値する。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長のリーダーシップの下「大学教育再生加速プログラム事業実施本部」を設置し、事業全体及びその成果と課題を可視化できる体制の中で取組を総合的かつ一体的に推進したことに加え、申請時に設定した指標に基づいたPDCAサイクルが着実に機能していることは十分評価できる。また、補助期間終了後は、「大学教育創造センター教育企画会議」が企画立案や進捗管理などについて主導的な役割を果たし、教育の質的転換を更に加速させていく計画であること、本事業の実施によって精査された客観的エビデンスに基づき評価を継続していくこと、さらには、全学で継続的・発展的に質保証に向けた体制が整備され、教職員も育成されてきていることから、今後も継続的かつ発展的に本事業が実施されるものと期待される。

事業成果の普及については、取組・成果の波及のため、本事業単独のWebサイトの開設や年度毎の事業報告書を作成・配付等、多岐にわたる取組が行われている。また、毎年開催してきたシンポジウムについては、他の選定校との共催・共同企画の実施により、選定校の垣根を超えた情報交換・発信を行ったことは十分評価できる。また、FD活動等、学内への波及活動も積極的に行っている。これらの積極的な情報発信の結果、「IDE 現代の高等教育」、新聞への記事掲載の他、中央教育審議会大学分科会での報告や「学修成果の可視化に関する大学の取組例」として、平成30年度文部科学白書に掲載されるに至っており、これは、当該大学の取組が全国から注目を集める成果を上げていることの表れであると高く評価できる。補助期間終了後も、絶えず効果的な情報発信に努め、更なる波及効果を生み出すことが期待される。